

CALCON 2003 報告

第 58 回カロリメトリー会議が日本熱測定学会とのジョイントミーティングとして 7 月 27 日から 8 月 1 日の日程でハワイのオアフ島にあるブリガムヤング大学のハワイキャンパスにおいて開催されました。ジョイントミーティングとしての開催は、2001 年 8 月に米国コロラド・スプリングスで開催された第 56 回カロリメトリー会議で決定されたものです。当時、日本熱測定学会の会長を務めておられた徂徠道夫センター長（当時）とカロリメトリー会議の Director の一員である阿竹徹先生（東京工業大学）が、熱測定学会の次期会長に決まっていた八田一郎先生（名古屋大学）とファックスなどで連絡を取りあって、また、J. Boerio-Goates 教授をはじめとするブリガムヤング大学の先生方と相談されて、ビジネスミーティングで提案されたのでした。当センターに縁の深い、菅宏名誉教授（1992 年）と徂徠道夫センター長（2001 年、当時）のハフマン賞、阿竹徹先生（1999 年）と稲葉章助教授（2000 年、当時）のクリステンセン賞といった実績と、毎年、300 人規模の討論会を開催し続けている日本熱測定学会の力量を見込んでの決定であったと思います。ちなみに、今回の会議の準備をお手伝いするという配慮もあってか、ハワイ開催が決まった後の BD（Board of Directors）会議で私は Counselor に指名され、今日に至っています。

今回のカロリメトリー会議はブリガムヤング大学の J. Oscarson 教授と阿竹徹先生を Program Co-Chairs とし、Goates 教授が現地でのアレンジをされる形で開催されました（実際には Goates 教授が全体にわたって采配をふるわれましたが）。今回の参加者は 120 名で発表件数は 116 件であり、ほぼ半数は日本からの参加者でした。例年の参加者数が 100 名弱とはいえ、北米大陸外の不便な開催地であったことを考えれば、参加人数の点でも成功であったといえます。サイエンスに関しても、多くの参加者が、日米双方にとって、他方のアクティビティーを確認するとともに、新しい実験結果や視点を得る点で有意義であったと感じたようです。実際、会議の最終日に開催されたビジネスミーティングや BD 会議においても、今回のジョイントミーティングの成功が語られ、この経験に基づいて、今後も外国の討論会との協力・協調を追求することが確認されました。

会議は Materials, High temperature and solutions, Database, Protein, Modulated techniques, Whole organicsms, Pharmaceuticals, Environmental and energy, General の九つのシンポジウムに分かれて行われました。各シンポジウムから原則として 1 件ずつ全体講演が行われました。センター関係では 6 件の一般発表の他に、稲葉（シンポジウム Materials）、齋藤（Modulated techniques）が招

待講演を行いました。

カロリメトリー会議は、毎年、いくつかの賞を授与しています。カロリメトリーに対する長年の貢献に対して与えられるハフマン賞は、今回、松尾隆祐名誉教授に授与されました。松尾先生は Calorimetric Studies of Quantum and Classical Disordered Systems と題して受賞講演をされました。松尾先生の受賞に関しての詳細は別項をご覧ください。実験手法や装置開発に関わる顕著な業績を顕彰するクリステンセン賞はブリガムヤング大学の J.B. Ott 教授、40 歳以下の若手研究者を顕彰するスナナー賞はカナダ、レスブリッジ大学の A.W. Hakin 教授に贈られました。さらに、センターの池内賢朗君が、優秀な学生に贈られる Giaque 賞を他の 3 名の学生参加者と共に受賞しました。池内君にはこれを励みに一層の精進を期待したいと思います。

(齋藤一弥)